

令和 6 年度

大学生の力を活用した集落復興支援事業 実施報告書



専修大学 商学部 渡邊隆彦ゼミ

福島県喜多方市高郷町磐見地割行政区

目次

- 1. はじめに
- 1-1 活動背景
- 2. 集落情報
- 2-1 集落立地
- 2-2 集落風景
- 2-3 地割集落の人口
- 2-4 地割集落の年代別人口
- 2. 活動概要
- 3-1 活動目的
- 3-2 活動内容
- 4. 調査スケジュール
- 4-1 第一回目活動
- 4-2 第二回目活動
- 4-3 第三回目活動
- 5. 地割集落の課題
- 6. 提案
- 7. 今後について

1. はじめに

限界集落は、人口の 50%以上が 65 歳以上で、農業用水や森林、道路の維持管理、冠婚葬祭などの共同生活を維持することが限界に近づきつつある集落のことである。2015 年の国土交通省の調査では、今後 10 年以内に消滅する恐れがあると予測される集落は 570 あり、いずれ消滅する恐れがあるとみられる集落と合わせると、過疎地域全体の 4.8% (3,614 集落)になる。このように日本の少子高齢化・過疎化の進行を止めるためにできることを模索していくことが重要であると考え、行動していく。

1-1 活動背景

2022 年 1 月頃にゼミナールの合宿にて、喜多方市を訪れ、地割集落の方々との交流を通して、地割集落の方々と地域支援員の方々から、強い要望と地割集落の魅力や集落の人々の人柄や優しさに触れる中で私たち自身が集落の人々を助けたいと考え生まれ、福島県の集落活性化プロジェクトに参加したのも「人」「自然」「地域」がどのような形を迎えて行くのがよいのか、実際に現地での声を聞いて少しでも役立てることがあるならば、と考えたからだ。今回、大学生の力を活用した集落復興支援事業に参加し、地割集落の方々とマッチングし、活動することとなった。

2. 地割集落情報

2-1 集落立地

福島県喜多方市高郷町地割行政区

最寄り駅：山都駅（約 6.6 km）車で 11 分

2-2 集落風景



2-3 地割集落の人口

	世帯数	人口	男	女
福島県	793,136	1,852,207	909,166	943,041
喜多方市	16,138	44,199	21,226	22,973
高郷町	595	1,621	770	851
地割集落	14	34	19	15

2-4 地割集落の年代別人口（2021/10/1）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
男	1			4	2	8	4	
女	1	1		2	1	3	3	4
計	2	1		6	3	11	7	4
比率	5.8	2.9		17.6	8.8	32.3	20.5	11.7

3. 活動概要

3-1 活動目的テーマ

1年目の活動は「知る・体験する」をテーマに地割集落に関する情報収集を行い、2年目の活動は、「検証する」をテーマとし、活動し、3年目である今年度は、「提案する」をテーマに集落に新たな価値を生み出していくために提案活動を行った。

現地活動の中で、現地の方との交流会で、学生目線での提案を行った。

以下が提案した意見である。

- ・空き家のコテージ利用
- ・BBQ場などのレジャー施設の建設
- ・住民ネットワークの簡易化
- ・知名度向上のための広報活動

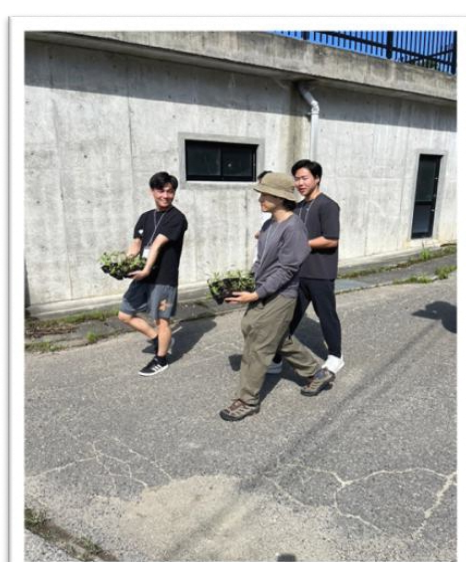
規模の大きい提案が多いためすべてを実行することはできないため今回は現地活動を通した「情報収集」そして「広報活動」に重点を置いて活動した。

3-2 活動内容紹介

活動内容としては、以下の通りだ。

農業体験

・エゴマの種植え



・トウモロコシの収穫



清掃活動

・ 防火水槽の清掃



・ 町周辺の清掃活動



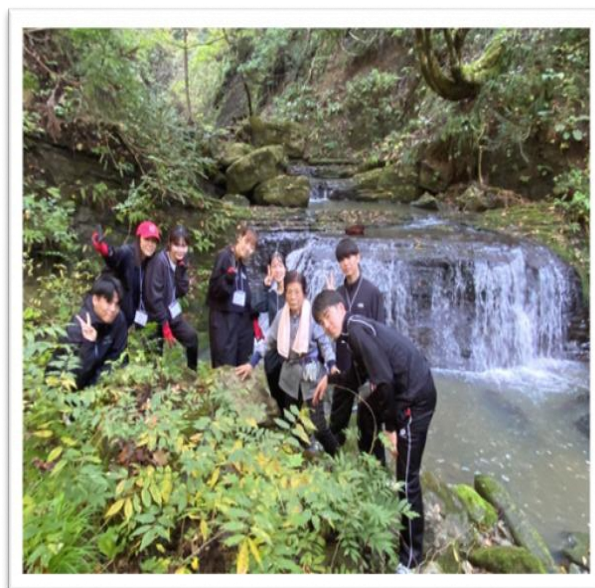
交流会



・消防講習



・フットパスコース体験



広報活動

・Instagramでの広報活動



・社会人向け SNS アプリ「note」での広報活動



4. 調査スケジュール

4-1 一回目：7月20日（土）～ 21日（日）

一回目の現地活動では、エゴマの種植えやホタルの生息地見学、意見交流会などを行った。意見交流を通して今後の課題や村の長所を生かした事業展開などについて提案をした。

4-2 二回目：8月3日（土）～ 5日（日）

二回目の活動では、意見交流会や道路の清掃、前回植えたエゴマの手入れなどを行った。現地の方との食事会を通して親交を深め、集落の方の苦労や集落の内情などを伺った。前回提案した案についても協議した。

4-3 三回目：8月29日（火）～ 31日（木）

最後の現地活動では、防火水槽の清掃や消防講習、マスの稚魚放流などを行った。その中で集落の自治体活動の参加率の高さや住民同士のつながりの強さを感じた。フットパスコースの体験では、山に道を作っており、四季折々の景色を楽しむウォーキングスポットとなりうる可能性を感じた。多くの魅力や住民の方の温かさに触れそこで得た情報を基に広報活動を行うと決心した。

5. 集落の課題

三年間の活動を通して、見えてきた「集落の課題」を以下にまとめる。

①インターネット環境が整っていない。

→活動をしていく中で、数少ない訪問以外に連絡を取ることは必要不可欠であるが、現在は“LINE”アプリでしか連絡を取ることができない。今後、「イベントの開催」や「企業の誘致」などを行うためには、“ZOOM”や“Google Meet”といったオンライン会議ができる環境が必要になってくると考える。

②魅力の発信ができていない

現地での活動を行う中で、鮮やかな景色、豊富な農耕地、住民の結束力など魅力的な点があるにもかかわらずそれらを集落の外の人々に発信する術がないという点が課題だと感じた。私たちが体験した農業体験や空き家での暮らしは役所と連携し整備していけば商業利用していくポテンシャルがあると思う。そういった形で外の人々を受け入れる体制を作ることで、「関係人口増加」を達成できるのではないかと考えた。しかし、いきなり大規模な計画を立てるのは難しい。そこでまずは、人々に集落を知ってもらう「認知」の段階をクリアすべきだと考えた。

6. 提案

インターネット環境の整備については、私たちの実現可能な領域を大きく超えていると感じたため、こちらには注力せず魅力の発信に注力した。

具体的には今年の初めから行っていたインスタグラムを用いた広報活動に加え、社会人向け SNS アプリ「note」を用いた広報活動を行った。

「note」にて掲載した記事では、大学生の力を活用した集落復興支援事業についての説明や集落の紹介などをまとめ多くの方に視聴してもらいこの活動や集落を「認知」してもらおうと考えた。

7. 今後について

地割集落との活動は、今回で幕を閉じることになった。地割集落との3年間の活動では、今まで知りえなかった集落の魅力や苦勞、村の内情などを知ることができた。その中で交流や情報収集を行い課題解決のために学生目線での提案ができたと感じている。3年間を通して行った情報収集や今回土台作りを行うことができた広報活動、これらを来年度の福島県大沼郡昭和村との活動に活かしていきたいと考えている。